



第4章

基本方針に基づく取組



4-1 基本方針1：人が集まり、にぎわいや交流が生まれるまち

宮の沢エリアには、公園、広場など、人が集い、滞在できる公共的空間が多く存在しています。

これまで、イベントや社会実験を通じて、これらの空間を活用したにぎわいづくりが官民連携で実施されてきた点は、地域の大きな特長です。

一方で、こうした取組は、特定の日や時間帯等に限られる「非日常」であることが多く、「日常」の中で自然に人が集い、過ごす風景として定着しているとは言い切れない状況も見られます。

そこで当方針では、「非日常」だけでなく「日常」における公共的空間の役割を広げ、にぎわいや交流が生まれる場が、「日常的」にまちのあちこちに点在する状態を目指します。

- 当方針の主な取組は、以下の場所で展開していきます。

取組を展開する 主な場所

- 宮の沢ふれあい公園
- ちえりあ前広場
- 手稲記念館
- ちえりあ
- 地下通路
- 店舗前など民地内の空きスペース など

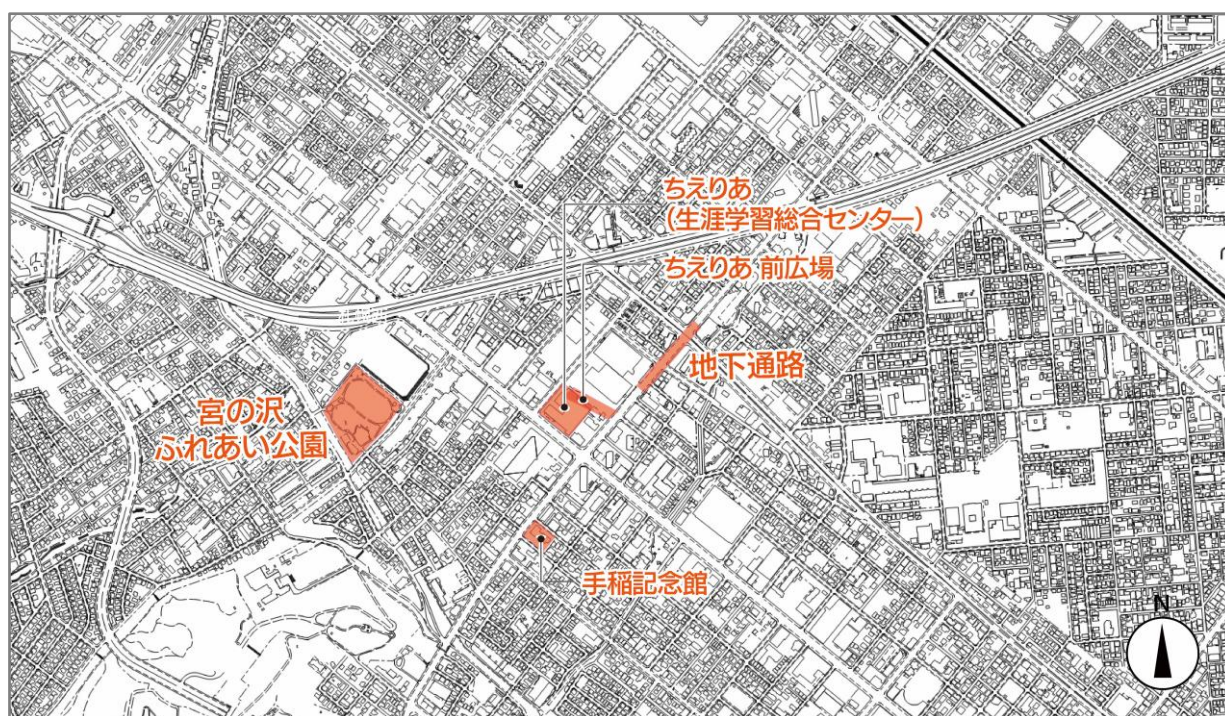


図 主な取組場所の位置図（一部）

取組 ①

オープンカフェやキッチンカーによる飲食店の展開

店舗前にオープンカフェを開設するほか、公園や広場において、キッチンカーを出店するなど飲食店の展開を検討します。

飲食店の展開を図ることで、飲み物や軽食をきっかけに人が立ち止まり、会話が生まれ、滞在時間が延びるような交流の場を創出します。



ちえりあ前広場での社会実験

取組 ②

店舗・地域住民等と連携したマルシェの開催

地域のカフェや店舗、事業者、地域団体などと連携し、マルシェやイベントの継続的な実施を進めます。

マルシェ等の開催により、人の滞留が生まれ、にぎわいや交流を創出するとともに、地域の魅力を発信していきます。



ピクニック・フェス宮の沢

取組 ③

パブリックスペースなどを活用したチャレンジの場の創出

公園や広場などのパブリックスペースを対象に、一定のルールのもとで多様な使い方を検討します。

実験的にマルシェ、ワークショップ、展示やパフォーマンス、市民活動の発表などを行い、空間の使い方を検証するとともに、地域住民や地域団体等の活動機会の創出を図ります。



まこフェス

取組 ④

冬を楽しむアクティビティ、アートづくり

雪を活用した取組など、冬ならではの魅力的な活動を進めます。

スノーキャンドル、イルミネーション、雪像づくりを含む冬を楽しむ屋外イベントなどにより、冬でも外に出たくなるきっかけをつくりま



新さっぽろ健康フェス

取組 ⑤

公園や広場のさらなる活用

既存の公園や広場において、仮設を含めたベンチやテーブルなどの設置・配置の工夫、小規模なイベント等の実施を通じて、より多様な使い方について検証します。

また、町内会などの地域団体による美化活動や、民間の活力・ノウハウも活かし、人が集う、にぎわいの場として、公園や広場をさらに日常的に活用していくことも検討します。



百合が原公園Lilili 出典：札幌市HP



4-2 基本方針2：みどりを身近に感じ、景観や住環境を大切にするまち

宮の沢エリアには、都市の中でありながら、河川や通り沿いから望むことのできる山々などの豊かな自然、多くの公園、さらには地域の歴史や文化を学び感じることができる資源が立地しており、良好な景観や住環境が整っています。

今後も、こうした景観や住環境を維持・向上していくためには、日々の生活動線の中にみどりを十分につなげるなど、まち全体として、さらに魅力を引き出していくとともに、すでにある資源を今後も保全・活用していくことが重要です。

また、こうした環境を整えていくことは、地域住民だけでなく、来街者が心地よい空間と感じることにもつながります。

そこで、当方針では、花やみどりを身近に感じるとともに、景観を維持・向上し、心地よい快適な住環境がまち全体に広がっていく状態を目指します。

- 当方針の主な取組は、以下の場所で展開していきます。

取組を展開する 主な場所

- 道路とその沿道
- 上追分川や旧中の川
- 手稲記念館
- 上手稲神社
- その他歴史文化資産 など



図 主な取組場所の位置図（一部）

取組 ①

建物のまわりに花やみどりを配置

住宅や店舗前に花壇やプランターなどを配置し、身近な場所から花やみどりを増やしていきます。

こうした取組を進めることで、景観を向上させ、歩く楽しさやまちへの愛着・心地よさを高めていきます。



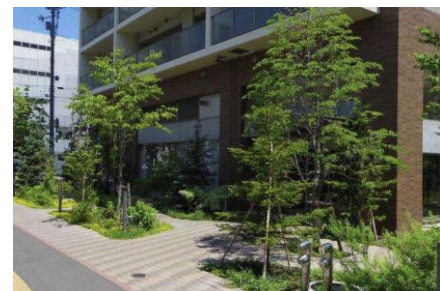
札幌市役所前おもてなし花壇

取組 ②

ゆとりのある建物配置・空間づくり

建物や工作物を建てる時は、敷地の境界から少し後退させ、ゆとりある住環境を確保します。

後退して生み出した空間は、緑化スペースや冬期間の雪の堆雪場所としても活用することができます。



ゆとりある建物配置・空間のイメージ
(さっぽろ都心みどりのまちづくり助成制度)

取組 ③

水辺に触れられ、集える親水空間づくり

河川空間において、散策や休憩ができる親水空間の整備や活用を検討します。

日常の散策や休憩の場として、気軽に立ち寄れる環境を整えることで、暮らしの中にゆとりや憩いが生まれることを目指します。



豊平川での川見（かわみ）
(Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン)

取組 ④

まわりの景観にあった外観・空間デザインづくり

建物の高さや外観、外構、照明などについて、周囲の景観と調和したデザインを誘導し、落ち着きのある景観づくりを進めます。

一つ一つの建物や空間の配慮が積み重なることで、まち全体として統一感と心地よい景観の形成を図ります。



真栄第二地区

取組 ⑤

沿道への屋外照明の設置

夜間景観の形成や、夜間の安全性を向上させるために、沿道には屋外照明を設置し、可能な限り点灯します。



札幌駅前通り 出典：札幌観光協会HP

取組 ⑥

地域の歴史資産や大切な資源の維持・活用

手稲記念館や上手稲神社、時習館（じしゅうかん）記念碑など歴史資産や地域の大切な資源を維持・活用し、文化や景観だけでなく、まちの成り立ちなどの記憶も次の世代につないでいきます。



歴史的資源を活用したまち歩き
出典：一般社団法人サツポロコンシェルジュ

取組 ⑦

雪のアートによる灯りの創出

スノーキャンドル、イルミネーションなどの雪を活かした取組により、冬季の景観を創出します。



宮の沢ふれあい公園での冬の実証実験

コラム③ 宮の沢中央地区の景観まちづくり、地区計画ってどんなの？

宮の沢中央地区（宮の沢中央町内会と同様の区域）には、宮の沢エリアと同じく、手稲連山の山並みや、ラベンダーや桜が彩る通りなど、みどり豊かで親しみのある景観が広がっており、こうした自然と暮らしが調和した街並みは、地域の大きな魅力となっています。

このような地域特性を生かした魅力的なまちとなれるよう、宮の沢中央地区のまちづくりの考え方や方向性をまとめたものが「宮の沢中央地区景観まちづくり指針」です。

また、この景観まちづくり指針をさらに実現していくため、住民のみなさんと行政と一緒に考えた、地域の特性に合わせたきめ細かなルールである「宮の沢中央地区地区計画」を策定しており、建てられる建物の高さを制限し、良好な景観を維持する取組を実施しております。

宮の沢エリアは、宮の沢中央地区とも近接していることから、このまちづくり指針でも、「宮の沢中央地区景観まちづくり指針」の考えを踏襲しており、宮の沢全体の魅力を向上していきたいと考えています。



手稲連山



ラベンダー畑

人と人のつながりを大切にした
みどりあふれ快適な暮らしのあるまち
～誰もが住み続けたい宮の沢中央地区～

景観まちづくりの目標

- 1 | 地域活動からみんなのふれあいや交流を育むまちづくり
- 2 | 安全・安心に散策することができるまちづくり
- 3 | ラベンダー通りから花とみどりがひろがるまちづくり
- 4 | 手稲連山を背景とした快適な生活環境を守り育てるまちづくり

宮の沢中央地区景観まちづくりの4つの方針

市HP：宮の沢中央地区での取組

<https://www.city.sapporo.jp/keikaku/chiiki/machidukuri/miyanosawachuo.html>



4-3 基本方針3：つながりを感じ、安心して歩ける楽しいにぎわいのあるまち

まちの魅力は、個々の施設や資源だけで決まるものではありません。

通りを歩く中で感じる人々の活動の様子や気配、寄り道のしやすさ、歩いていて楽しいと感じられるかどうか、まち全体の印象を大きく左右します。

また、歩いて楽しむには、安心して歩ける空間である必要があります。

宮の沢エリアでは、地下鉄駅から各施設や公園、地域のさまざまな場所へと続く通りが、単なる移動のための空間ではなく、歩くこと自体を楽しめるつながりの場となることが重要です。

そこで、当方針では、散策すること自体を楽しむことができ、安心して歩きながら、通り沿いのにぎわいや人々の活動の様子を感じられる状態を目指していきます。

- 当方針の主な取組は、以下の場所で展開していきます。

取組を展開する 主な場所	● 道路とその沿道
	西野・屯田通 北5条・手稲通 二十四軒・手稲通 宮の沢一条通 宮丘小学校通西線
	● 地下通路 など



図 主な取組場所の位置図（一部）

取組 ①

建物低層部の開放的な空間づくり

通りに面した店舗などの建物低層部（主に1階部分）について、ガラス張りなどできるだけ大きな開口部を設けることで、内外それぞれの様子が感じられる工夫を進めます。

建物内の人の活動の様子やにぎわいの気配が屋外に伝わる、歩いて楽しい通りづくりを目指します。



建物低層部の可視化

取組 ②

にぎわいを生む店舗等の誘導

通り沿いの建物低層部（1階部分）にカフェや飲食店などの店舗等の出店を促し、にぎわいの拠点を増やしていくとともに、通り沿いに変化と楽しさが生まれる状態をつくっていきます。

短期的な出店や小規模な出店など、小さなチャレンジができる環境づくりや機会の創出を目指します。



沿道のカフェ

取組 ③

花・みどり・灯りによる沿道演出

通り沿いに花壇やプランターなどの配置、光を駆使した灯りの設置などにより、季節や時間帯に応じた演出を行います。

安心感や居心地のよさを感じられる通りの雰囲気をつくることで、昼も夜も歩きたくなる楽しい通りづくりを目指します。



札幌駅前通ストリートガーデン
出典：札幌駅前通まちづくり株式会社HP

取組 ④

ベンチやテーブルでひと息つける通りづくり

歩く途中で気軽に座って休めるよう、ベンチやテーブルを通り沿いに配置します。歩行と滞在が自然に行き交う通りの形成を目指します。

滞在の場をつくることで、通りに人の流れとにぎわいが生まれることを目指します。



通り沿いに設置されたベンチ
(Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン)

取組 ⑤

歩行者天国などによる通りの活用

一定期間、道路を歩行者中心の空間として活用し、安全性を確保しながら、イベントなどによる交流や滞在の場を創出します。

車ではなく人が中心となる道路空間の使い方を試しながら、にぎわいの可能性を広げていきます。



歩行者天国 出典：宮の沢まちづくり協議会

取組 ⑥

安全・安心な移動環境の向上

地下通路や接続する施設内の回遊ネットワークを適切に維持し、季節によらず快適に移動できる環境を維持します。

また、歩行者が安心できるように、建物を建てる際は敷地から少し後退させたり、自転車の走行マナーや利用環境を向上させることなどにより、歩行環境を向上させます。



誰もがストレスなく移動できる環境
（「Universal MaaS」プロジェクト）

取組 ⑦

回遊ルートづくりとまち歩き企画

地域団体等と連携しながら、公園、観光施設、歴史資産などを結ぶ回遊ルートを設定し、まち歩き企画やマップの作成などを検討・展開します。

歩いて巡る楽しさを通じて、宮の沢全体の魅力を感じられるようにします。



まち歩きルートの検討・試行
出典：一般社団法人サッポロコンシェルジュ

第4章 基本方針で目指す姿と取組



4-4 基本方針4：多様な人、多世代が共存しながら楽しめるまち

宮の沢エリアには、子どもから高齢者まで、多世代が日常的に利用する施設や空間が立地しているほか、大規模な医療施設、観光施設、スポーツ施設などが立地しているため、さまざまな立場や背景をもつ人が訪れ、滞在し、行き交っています。

こうした多様な人々が、それぞれの過ごし方を尊重しながら、安心して暮らし、訪れることができる環境を整えることは、まちの居心地や魅力を高めるうえで欠かせません。

そこで、当方針では、地域住民や来街者、若者から高齢者まで、多様な人、多世代が同じまちの中で心地よく過ごし、それぞれの楽しみ方を尊重しながら共存できる状態を目指します。

- 当方針の主な取組は、以下の場所で展開していきます。

取組を展開する 主な場所

- 宮の沢ふれあい公園
- ちえりあ前広場
- 道路とその沿道
- 地下鉄駅コンコース、地下通路
- 店舗前など民地内の空きスペース など

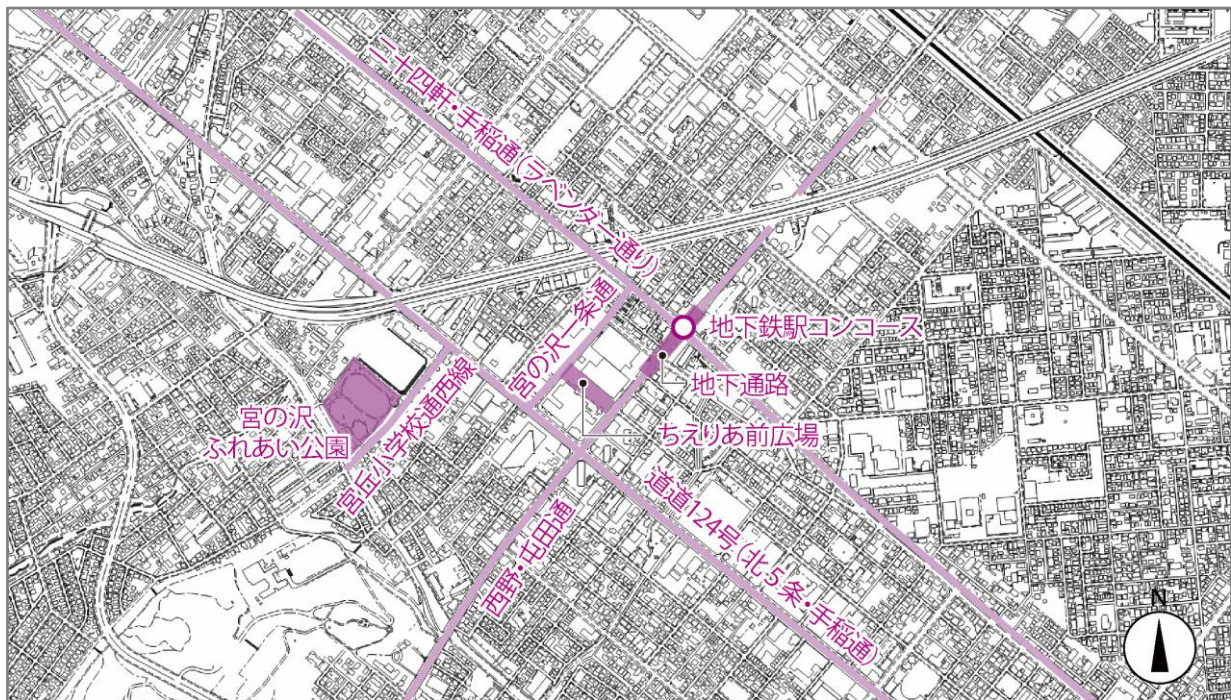


図 主な取組場所の位置図（一部）

取組 ①

観光客の適切な案内・誘導、回遊性の向上

観光客等の来街者を、スムーズに目的地に誘導できるよう、駅構内や各施設等への誘導サインの適切な表示を検討します。

また、利便性の向上のための多言語化や、宮の沢エリア全体の魅力を感じ、楽しむことができるよう、回遊性を向上させるためのマップの作成や案内サインの充実なども検討します。



デジタル案内板

取組 ②

誰もが過ごしやすいユニバーサルの推進

地域住民、来街者問わず、誰もが円滑に移動できたり、快適に利用できるよう、移動経路や建築物においてバリアフリー化を推進します。

行政、民間個々に推進するのではなく、官民連携し、協働による取組を展開していきます。



建築物のバリアフリー化

取組 ③

居心地のよい公園・広場の維持・整備

既存の公園や広場において、多様な人が、様々な楽しみ方ができるよう、仮設を含めたベンチやテーブルなどの設置・配置などの工夫を通じて、居心地の良い空間を創出します。



公園のベンチやテーブルなど
(Well-Moving City SAPPORO 2045 ビジョン)

取組 ④

オープンカフェやキッチンカーによる飲食店の展開

飲食店の展開を図ることで、単に交流を生むだけでなく、多様な人が、それぞれの時間を楽しむことのできる空間を創出します。



アカプラ 出典：札幌駅前通まちづくり株式会社HP